

MBC ラジオ『ココが聞きたい！ドクタートーク』2023.9.23
第 1064 回放送分『間質性肺炎』4 回目 ゲスト：内田章文ドクター

二見いすず

今月のドクタートークは

「間質性肺炎」をテーマにお送りしています。

お話は、鹿児島県医師会の内田章文（うちだ あきふみ）ドクターです。

内田さん、よろしくお願いいたします。

内田章文Dr.

よろしくお願いいたします。

二見いすず

先週は、間質性肺炎の検査と診断についてお話しいただきました。

聴診器や診察、そしてレントゲンやCTの画像、さらに気管支鏡や肺生検などの組織、これらの3つを合わせて診断をつけていくとのことでした。

今週は何について教えていただけますか。

内田章文Dr.

今週は間質性肺炎の治療についてお伝えします。

治療において重要なのは、間質性肺炎の状況が炎症が主体なのか、かたくなる線維化が主体なのかを見極めることです。

二見いすず

炎症か、線維化か、ですね。見極めることが大切なのは、その後の治療方法が変わってくるからでしょうか？

内田章文Dr.

はい、薬剤が変わってきます。

まず炎症が主体の場合ですが、ステロイドや免疫抑制剤を使用した抗炎症治療により、間質に起こった炎症を抑えます。

一方、線維化が主体の場合は、抗線維化治療を行います。

間質の線維化を引き起こす過剰なコラーゲンの増殖を抑えることで、病気の進行を遅らせることが期待されています。

二見いすず

間質性肺炎の治療は、薬剤のみなのでしょうか？

内田章文Dr.

薬剤以外の治療もあります。

息苦しきの軽減や心身の機能を改善するために、呼吸リハビリテーションを行うことがあります。

二見いすず

この呼吸リハビリテーションは、先ほどの炎症、線維化、どちらでも行いますか？

内田章文Dr.

はい、どちらでも行います。

呼吸リハビリテーションは医療機関だけでなく、ご自宅でも継続して行うことが大切です。

ご自宅でするときは、足踏みや軽い散歩などがいいでしょう。

足を動かすと呼吸もすることになるので、軽い運動でも結構ですので、足を動かす運動を続けることが大切ですよ。

二見いすず

これはやはり毎日行うのがいいんですよね？

内田章文Dr.

そうですね。理想は毎日、1日30分弱が目安です。

苦しくなったらやめる、楽になったら続けるを繰り返してみましょう。

二見いすず

分かりました。

内田章文Dr.

これらの治療を行っても、残念ながら病状が進行して酸素が取り込めず、酸素不足なった場合は、酸素吸入・在宅酸素療法を行うことがあります。

また、特定の条件を満たした場合には、肺移植が検討されることもあります。

喫煙は、間質性肺炎の状態を悪化させるので、必ず禁煙するようにしてください。

二見いすず

分かりました。

今月は間質性肺炎についてお伝えしています。

お話は鹿児島県医師会の内田章文ドクターでした。

ありがとうございました。

内田章文Dr.

ありがとうございました。